



岩下幸史さん  
JA阿蘇

阿蘇市一の宮町で夏秋トマトを栽培している岩下幸史さん（33歳）を取材しました。

### ●新規就農者としての出発

地元の高校を卒業後、阿蘇市の会社に就職その後結婚され、3人の子さんにも恵まれました。岩下さんは、もともと独立して何かをやりたいかったが、ごども達が成長した将来を見すると、その思いが一段と強くなり決断したそうです。

独立を決断したあと、県の振興局や阿蘇市役所に相談する中で、同じ地区で「トマトづくり」で有名な斉藤さんのことを紹介されたとのこと。斉藤さんは、過去何人も実習生を受け入れており、全員が利益を上げ自立したトマト農家として成功に導いている人でした。

斉藤さんの受け入れの了承を得た岩下さんは、それから一年半の実習を受け、今年3月に独立しました。自分とはほとんど農業に経験がない新規就農者であり、トマトに適した土地も斉藤さんの仲介で21aを借入れての出発でした。

### ●新規就農して思うこと

実習期間を含め、この2年間で感じるのは、優れた技術を持つしっかりした指導者・パートナーに巡り合うことが本場に大事であり、自分は恵まれていると思う。

若い人で、自分でなにかやりたいという人は、農業も選択肢の一つにいてはどうか。農業は、技術的な問題や土地等いろいろ難しいこともあるが、高齢化で若い人の力が必要とされている。良い先導者に巡り合えば、努力のしがいのある仕事となるのではないかと話されました。

### ●仕事としての農業のこと

春の育苗、定植、6月上旬からは、毎日が収穫とかが一番忙しい。

健康であることもだが、一番心配なのは、台風、豪雨などの自然災害だ。7月の大型台風が九州上陸との予報には大変心配させられた。農業は、1年〜が勝負であり、やり直しがすぐにはできない厳しさがある。栽培技術の向上と堅実な規模拡大をしたい。来年は現在7棟のハウスを、人を雇い2棟増やす予定だと語られました。

### ●好きな言葉

「感謝」

農業を始めるにあたりお世話になった、斉藤さん、県振興局、市、JA、家族に対し感謝の結果を返らせるようにしたい。それが恩返しだと思っていると話されました。



出荷者  
池田 和子さん  
JAたまな直売所「Y-BOX」他

### ●玉名市のマンゴー

玉名市では3軒の農家がマンゴーを栽培しています。池田さん宅はそのうちの1軒です。元々は建設業を経営されていましたが、8年前にご主人が定年後の楽しみとして始めたそうです。現在では約10aの畑100本のマンゴーを栽培。その他にも、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツを栽培しています。

### ●殺虫剤は使用しません

マンゴーはウルシ科の果樹で、1月〜2月に開花します。ミツバチで受粉させ、余分な実を摘果し、最終的に枝1本に1個だけ残して育てます。収穫は6月後半から8月はじめまで続きます。残留農薬がでない様、美がなつてからは殺虫剤は使用しません。そのかわりに、殺菌したり、酵素で木の免疫を強くすることで防虫しています。このこと。収穫した次の日には出荷できるように箱詰め。それらは市場のほか、JAたまな直売所の「Y-BOX」や「Y-BOX」に南関いきいき村の3店に出荷しています。

### ●おっぺしゃん工房

池田さんは「おっぺしゃん工房」の代表

もしています。「おっぺしゃん工房」は天水町の農家の主婦たち7名で結成した加工品製造グループのこと。今から4年前に設立されました。自家製の野菜や果物を使い、添加物をなるべく使用しない加工品を作っています。その一つである「玉名シリアル」おトマトゼリーは、平成24年度熊本県農産物加工食品コンクールで入賞しました。今はゼリーのほか、「イチゴ」のひのしずく、キウイ、不知火を使った無着色、無香料のジャムや、ミカン、ドラゴンフルーツ、梅、イチゴ、トマト、マンゴー、キウイの7種類の果物を使ったフルーツグミを作っています。注文は月1300個ほど。Y-BOXや「郷〇市」などの物産館のほか、新玉名駅の「観光ほつとプラザ・たまら」でも販売しています。そのほかにも、富山県生協北陸にも出荷。佐賀の飲食店会社「梅の花」からも注文があります。「毎口会議」など予定がびっしり入っている中で、マンゴーは忙しい時に手伝う程度になっています」とのこと。

### ●これからの抱負

池田さんは、大変だったことは特にないと話します。「マンゴーが初めてできた時はうれしかったし、おっぺしゃん工房での活動も、和氣藪々としてやっています。皆で楽しくやっていると一番ですと話します。またこれからの抱負として「美味しい物を作って、お客様に喜んでほしいです。よかったです一度食べてみてくださいますと話してくれました。